

昭和 17 年 6 月 13 日

本日より 4 日間取締候補生を命ぜらる。自己の任務に関して十分検討し任務完遂の決意を以て申告す。心得に就き特に左の記を銘肝せり。中略、修養録に関する区隊長殿の御注意に有難し、真（まこと）に修養時間を活用して修養し、修養録をしてその名に相応（ふさは）しからしめる為（ため）に、自己に於て修養の資（し；もつ）たりを考ふる処（ところ）は小事たると雖も記載すべきものなりと思ふ。

蓋（けだ）し謹（つつしん）で書く時は心に深く銘ずるものにして実行の一動力たり得（う）れば也。取締の任務は寢室勤務者と組みし場合、取締の誠意・力倆（りきりょう：完遂能力）最も顕（あらは）る。所詮（しよせん）人格の力に依って、動かざるを動かざるべからず。下略。

6 月 14 日

日曜日、平日操典（そうてん；マニュアル）を熟読する暇なき身なれば今日こそ勉強すべき也。然（しか）るに真剣に勉強する者を嘲弄（ちょうろう）し怠慢を以て自任する戦友少なからず。悲哉、真に勉励（べんれい）して君恩に報し奉（たてまつ）る志（こころざし）無きや。自ら反省すると共に此の第一区隊に辛苦精励（しんくせいれい）の気風を振起（しんき）せざるべけんや。中略、取締が真にその職務を果すは、自ら儀表（ぎひょう；手本）となりて諸規定を遂行する事によるもの也。下略

6 月 16 日

4 時半より 21 時迄（まで）校庭にて野砲の分隊教練実施。取締として全きを期せんとすれど失敗続出。精魂（せいこん）を尽す也。されど候補生は概して真面目なれば、取締の力如何（いかに）によりては極めて良成績を挙げ得る也。夜間訓練前銃剣検査ありたる時一人として指憚（したん）されたる者なきが如し。取締は指揮者なれば人を威服（いふく）するに足ると人を悦服（えっぷく）せしむべき徳性と厳肅なる品性とを要す。而（しかう）してそれを貫く誠（まこと）を最も重大なりとす。

6 月 17 日

取締下番（かばん；交替）。失敗の連続。それに対する諸叱咤（しった）は己をして精魂を傾けしめ心気自ら充溢（じゅういつ）せしめたり。中略、金子見習士官より統帥の問題に就て深刻なる考慮を促さしめられたり。入隊以来漸（ようや）くにして此の根本問題に触るゝ機会となりぬ。此の問題に徹する処なければ軍服を着（ちゃく）するとも軍人に非ざる也。下略。

6 月 18 日

又夏負けする時期となりぬ。入営以来の練武（れんぶ）未だ足らざるか例年の徴候（ちょうこう）あらはる。今夏は我肉体を精神力によりて屈伏せしむべし。臆（やが）ては世界の東西南北を馳駆（ちく；駆け巡る）すべき我等にして寒気（かんき）・暑気（しょき）に弱くして何のご奉公ぞ。汗と油のなかにあつて、今夏は如何なる暑気にも堪へ不動の自信を獲得すべし。

6 月 19 日

昨日より皇軍の本質、軍人精神の根本義に心を潜（ひそ）める機会を持ち得たり。今日の手塚大尉殿の訓示又「海行かば」の斉唱、永く眠れる心の喚（さけ）び醒（さま）されたるを覚ゆ。胸奥の炎の燃ゆる時心は私（し）を滅して爽（さはやか）に澄（す）みゆく也。真に日本の道を実践し来りし過去の偉人の業績に徴して己が心を磨くと云ふ最も純正なる教育方法が執られる事程感動の深きことはなき也・・・

6月20日

八九式一五加の放列布置、主として候補生のみの力にて実施。失敗ばかりにて所期の予定を遂行し得ざりしと雖も洵(まこと)に貴重なる体験なりき。特に粒々辛苦後(いちいち苦心したこと)の感想を吐露し更にそれを教官より批判して頂きしは実に画期的教育法にして得る処(ところ)誠に大なりき・・・下略。

6月23日

印度の独立問題泰(タイ国)への広田氏派遣重大なる関心事となる。戦況の進展と共に根本的政治問題が次第に重きをなし来り、此等の点にアジア民族の動向とそれに対する日本の指導力が鮮明に表明される也。一見有利に展開せるが如くに見ゆる諸動向も実は然らず。印度独立の指導者の意図・泰国の意図に真に東洋の伝統に根ざし東洋の伝統を復興し、東洋的道義を確立せんとの純粹なるものありや・・・中略、目を大きく見開き遠く将来を慮りて日夜の修養につとむべし。

6月25日

金子見習士官の訓話は単なる私見に非ず。辛苦勉励によって体得せられたる日本伝統精神の根本を示されたるもの也。その故に一話一話に感ぜられる力と哲理をかみしめつゝ全身全霊を以て日本伝統の生命を感得せん事を念(おも)ふ。此の訓話は戦友間に論議の的となり居れば、是(これ)を機に真剣に魂の切磋(せつさ)を開始せん事を期す。

磯見習士官、内務(ないむ;日常生活に関する室内での仕事)の墮落を叱責さる。正(まさ)に然るべし。号令のふしだらを活(かつ)、模範を以て匡正(きょうせい)、断乎鉄槌を下さる。我等深く反省すると共に、誠意深ければ部下に対し必要に応じ断乎たる処置に出るは当然にして、而(しか)もそれによりてこそ部下は翻然(ほんぜん;ひるがえって)として悟るべく、その誠意こそ感ずれ決して恨み心の起こらざるものなるを感ず。正に将来の一指針たり。

6月27日

隊長殿の訓話に於て忠義の精神弥々(いよいよ)明瞭になりたり。一句一句に含まれる深義と具体的史実に徴して考へつゝ更に是を纏(まと)めて確乎たる信念を培(つちか)ふべき也。講堂に於て我国体の精華・日本の忠と外国の忠誠との差を述べたるも無見識なるものに過ぎざりき。所詮(しょせん)従来の勉強不徹底にして魂に銘ずるものに非らざるを露呈す・・・何たる恥辱ぞや・・・下略

6月28日

測図演習。天晴れて流汗激し、一里半の道程を軍歌演習、又山野を拔涉(ばっしょう;山を越え野をわたる)すること砲兵には珍しき事にて壮快(そうかい)也。測図は誠実さ・精密さ・機敏さを要求する事大なれば、是に依り修養を積む事著しきものあるべし・・・下略

6月30日

測図演習終了。二人共同しての三日間の作業により互の気心もわかり親密となり得たり。行軍中特に厳正なる隊伍を組み比較的強行軍に近き歩度(ほど;歩速)を保ち且最後に駢足(くそく;かけあし)を実施して意気大いに奮(ふる)へり。軍歌演習は無暗(むやみ)に実施するべきものに非ず。却(かえ)って士気衰ふるを見たり・・・下略

7月1日

炎熱下線路構成、初めて通信手の苦勞を体験せり。被覆線を担(にな)ひての駢歩、近来珍しく苦痛を覚えたり。落伍寸前の処なりし也。偶々(たまたま)原隊中隊長殿の御便(おたより)を転読、今日の己

に殊（こと）に痛切なる御訓示を得たり。下記「皆元氣にて御勉学の事と思ふ。ソロソロ喰心棒（くいしんぼう）が腹を害（そこな）ふ季節になるから氣をつけること、体力の衰え余病がつけ入るぞ、当方皆元氣旺盛、貴官等の噂をしてゐる、関東の夏は男性的に暑いから皆健康に留意せらるべし、夏やせなどは男のするものに非ざることを銘肝すべし。」

7月3日

校長閣下着任・・・陸軍中将伴健雄閣下、鎮海湾要塞司令官より、十時着校、直ちに着任に当たつての訓示五ヶ条・・・略

7月5日

三時に非常呼集、銃剣術の服装にて力走、全区隊小原台に集結して雄壯なる遭遇戦展開。近頃の憂鬱を吹飛ばす。明けんとする頃宮城遥拝（ようはい）。次で火災呼集。警戒管制下一層の緊張を要求されし。

7月7日

炎熱に苦しむ、五尺の短軀をもて余す。我乍（なが）ら浅間（あさま）し。此の七・七記念日に於ける我が現状は断じて許さるべからず。友人にて我眼の死せるを指摘する者あるは何たる事ぞ。断断乎として振氣（しんき；奮い立たす）すべし。海水浴、洋々たる氣分を養ふ。機宣（きぎ；時機にかなう）の処置を喜ぶ。

7月9日

軍務に専心すべき軍人が一私事によって心の一端を浪費するは以（もつ）ての外（ほか）也。過去の一事が凶（はか）らずも今日問題となりて迫り来る。輕薄なる一挙一動の影響する處（ところ）重大なるを痛感す。茲（ここ）に平日の一言一行義に当るや否やを判断して處（しょ）し、断じて悔を後日に及ぼす事なきを期す。速（すみやか）に道によりて禍根（かこん）を除去すると共に深く後日の鑑戒（かんかい；いましめ）となす。

7月10日

断水続き、夜見習士官の指揮にて海岸に水浴び並（ならび）に洗濯にく。溢れ流るゝ清水に浴し汚れを落とす。海の香を胸一杯吸い込みつゝ海と空を見渡せば探照燈の光動を、飛行機の爆音高らかなり。

7月14日

転営準備開始、22時迄重材料運搬、火砲保管者として慎重に点検に点検を重ね。自動車手の苦勞極めて大にして予想以上なるを知る。吾人は互いに異なる仕事の難局を云ふ事あるもかかる認識を持たず、互にその仕事の特性を理解尊重し相協力すべきものなるを感ず。・・・下略

7月16日

3時起床4時半出発富士に向ふ。朝食後（おく）れて食堂の後片付をなす暇なく出発せしは心残り也。車中睡魔に襲はるゝ事甚（はなはだ）しと雖も、行くは富士の靈峰聳（そび）ゆる處（ところ）心は戦場に赴（おもむ）くに似て氣振（ふる）ふ。先頭牽引車にて駒門（こまかど）廠舎（しょうしゃ）に入る・・・野砲らしき砲声しきり。24時就床、不寝番二番立、居ねむり恥かし。

7月17日

一日中火砲の諸材料の点検整備及携行官給品の整頓をなす。昨夜より痛感せし事は⊖（二式砲戦車）重材料運搬に当たり不注意の為極めて多くの「ナット」を紛失したる事、良道短距離にして此の有様、戦場にては余程の注意・処置なくば車輪解脱して運行不能となるべし。火砲の運行法・火砲の車両への取

付法に一般の注意改造あらん事を望む。

7月21日

取締候補生が注意せし如く候補生に欠礼(けつれい)する兵隊極めて多し。是を匡正(きょうせい)して候補生の意気を發揮すべき也。正(まさ)に然(しか)り。同時に我々は兵をして欠礼して平然たらしむる処の自らの態度を反省すべき也。我々の一挙一動に我々の意気を發揮すべき也。

7月24日

4時より観測の間稽古、基本動作より応用動作へ、午後射撃の基礎諸元(しょげん;形態)決定へ、中隊長の命により命ぜられるまゝに動作する段階より自己の能力に依り総合的に判断し自己の命令によって射撃せしむると云ふ処に進みし也。無限の喜びを感じず。むつかしき事はかりなれど徹底的に自得せざらんばあるべからず。勉励あるのみ。・・・下略

7月26日

富士登山行軍、

①馬返迄(まで)の澁刺たる意気に比し、一合目二合目三合目の苦痛甚し、殆(ほとん)ど落伍に至らんとせし時機ありき、天頂は登れども登れども近づかず、所詮苦しみ通さざれば頂上に至るを得ず。一旦落伍せばそれ迄なり、人生亦然(しか)り。気分を励まして足の続く限り一步も遅れじと進みに進む、要する処(ところ)は不撓不屈(ふとうふくつ)の精神のみ。

②六号目にて御来迎(ごらいごう)を仰ぐ。冷風雨の中に整列して敬礼・万歳を唱ふ。雄大・壮麗・神巖云ふべき詞を知らず。日本は太陽が出ずる処なり。太陽は万物を生成化育す。天皇は太陽也。・・・その地上に於ける具現者として地球に君臨したまふ先賢の教を回想しつゝ眼前の光明に打たれて自(おのずか)らにして敬礼し陛下の万歳を三唱し奉(たてまつ)る。黎明(れいめい)の太陽は臙(やが)て中空に昇って白晝(昼)となる。・・・断乎として頂上に至るべし。

③山頂に近づくに従ひて足自ら軽し。人は異常なる感動に遭ひ、至るべき目標の近さを知れば自ら気勇(いさ)むものと見えたり。最も困難の時機こそ最も重大なり。是を突破するや是に屈するやによりて万事は決す。又女子子供無数の人々の軽き足とりを見ては、弱気は自ら消ゆる也。

④山上に神社あり、官幣大社浅間神社也。山上には必ず神あり、是日本の古俗、日本人として喜びを感じず。ヒマラヤ山頂に日本の神を遷し参らす秋(とき)は何時(いつ)ぞや。世界の山々に日本の神を降臨させ参らすべし。

⑤隊長曰く「富士山を征服したと云ふはうそ也。富士山にやっと登りつきたる迄にて、心身の鍛錬(たんれん)上富士山に無限の教を受けたる也」、無限の味(あじは)ひある言(ことば)なり。

8月1日

区隊長殿陸軍大尉に進級せらる。芽出度(めでた)しとは書かざるやの隊長評あり。現地教育二日目、収穫極めて大。現地に即して諸法則を考ふるは嬉しき事なり。されど操典(そうてん)の研究弥弥(いよいよ)不足なるを痛感。結局無我夢中の裡(うち)に斯(か)くの如きものなるかとの要領を得たるのみ。所詮此の体験に依りて得たる著眼(ちゃくがん;着目)により操典を綿密に研究すべきのみ。江川太郎左衛門の反射爐(炉)見学、幕末国家非常の時一意海防に身心を砕き、火砲發展史上不朽(ふきゅう)の足跡を遺(のこ)せし彼の苦心に対し深き感謝の意を表す。・・・下略

8月2日

独乙(ドイツ)に80糎(cm)砲あるを新聞にてみたり。誤りにあらざるかと思ひしに又独乙に列車砲と

して口径人間二人歩ける位のものありとの記事を見る。符節（ふせつ）を合す（一致する）。全く吾人（ごじん；我々）の常識を絶す。我国の現況に深き思ひを致さざるべけんや。・・・下略

8月4日

中間考查実施、基礎的常識的な問題なりしに一つも解答可なるを得ざりき。所詮平常の修学をその時々にて徹底的ならしむる外なき也。一応理解しある如く思ひ居りし事も書き現（あらは）し見れば真に理解しあらざりし事を知る。唯嬉しき事は勉強すれば不明なりし事まとまりざりし事も次第に理解整理出来ると云う事及重点要点の把握要領が次第に会得され来れるを知り得たる事也。大いに勉励すべし。

8月5日

前略。印度（インド）の動向は注目すべし。印度に達識の士あるに拘らず、印度として起（た）ち得ざるは実に印度の内部問題也。相對する政治団体と宗教団体の問題、深き遠き歴史的因縁のなせる対立、そこに総ての癥あると知る。・・・統一の原理を内蔵せざる印度。これを率ゐて起つガンジーの姿に無限の感慨を払ひつゝ、日本人として己（おのれ）自らの姿に深刻なる反省を下す。

8月7日

週番士官は、102区隊の融和を強調せらる。氣分的なる和合は確に秩序ある協同の重大なる要素也。而して此の点はその基礎たる一区隊内各個間に於て相当なる成果を得たる也。然（しか）れ共（ども）我等の融和は互いの氣心が理解されて慣れあひたるの域を出でず。和とは同じ目的の為（ため）に死生を同じうする真心の触れ合ひて互に切磋邁往（まいおう：ひたすら進む）するを謂ふ。我々の親しさは深く掘り下げたる真心の接触より自ら発するものには非ず。己の神は深く秘めて所見異り、利害反すれば別人の如し。・・・反省するに我は今和して流れつゝあり、和して同せず、和して流れず、己を凝視すべき也。

8月8日

早朝非常呼集大阪迄馳歩、5時20分大詔奉載（たいしょうほうたい；戦争完遂国民運動）式、謹（つつし）み畏（かしこ）みて聖慮を奉載し弥弥（いよいよ）自己の本分に邁進（まいしん）せんとす。非常呼集、早きもの三分遅れし者五分、前回に比し成績好しと賞せられしも実状に就き考ふべき問題あり。非常呼集とは取るものもとありあえず集合する事なりや或は直ちに行動出来る準備をして集まるべきものなりや、愈々（いよいよ）馳走（かけあし）と定まりて便所に行きし者大半なりしは果たして可なるか。・・・後略

8月10日

愈々、砲車小隊教練に入る。八九・一五加（八九式十五糎加農砲）の放列布置撤去より始る。入学以来殆（ほとんど）ど習得せる事なかりし吾にとりては絶好の機会なり。特に各砲手一順繰上（くりあげ）交替方式は実に宜敷（よろし）き方法也。この二・三日を以て八九・一五加を完全に習得すべし。

ガンジー・ネール・アザット等印度の志士一網打尽さる。正に印度に於ける安政大獄也。彼等或は再び天日を見るを得ざるべし。悲痛云はむ術（すべ）なし。・・・下略

8月11日

ソロモン海戦の大戦果発表さる。翻（ひるがえ）りて反省するに吾等の実情を以てして期待すべき対ソ戦に於て、果たして斯くの如き戦果を挙げ得るに至るや否や。㊦（二式砲戦車）の一夜展開すら極めて困難なり。而（しか）も此の一夜展開すら実戦には間に合はざる如く思はるゝ也。今週の砲車小隊教練に於て迅速確実なる展開を力の限り務（つと）むべき也。

8月16日

昨日を以て砲車小隊教練終了。未曾有（みぞう）の困苦の裡（うち）に得難き体験をなせり。未修得なりし八九・一五加の方は砲架車長の仕事を通し失敗を重ねつゝ習得。我が砲架車長なりし時紛失官給品少なからず、長の責任の甚（はなはだ）深（ふかき）を思ふ。又体力不足に苦しむ。ひたすらにやせ我慢すべきのみ。断じて泣き事云はざれ。

四五二四榴（四五式二十四糎榴弾砲）予想を裏切り、一夜展開どころか午前中に射撃準備完了を体験す。指揮官の能力に依り作業に著しき差異を生ずるを体験し驚く。

8月19日

愈々（いよいよ）射撃教範の学科に入る。待望の学科也。然るに二日間睡魔に冒（おか）されて殆ど頭に入らず、残念の至り也。他の者の如く少しも注意を受けざりしも眼のみ開きて必死せる也。未だ斯くの如きはない。・・・中略・・・見習士官区隊長より保管兵器の員数・手入れに関し徹底したお叱りを受く。保管者として大なる恥辱を覚ゆ。

8月27日

23日より27日まで相模平野に於て現地教育を受く。隊長より現地教育の総評あり。次で区隊長注意。区隊長総評あり。現地教育の有益なりし事蓋（けだ）し計るべからず。自己の職責に於て又精神上の問題に於て。主要なるものは総評・注意と重複。特に最後の陣地偵察に於て未だ陣地の決定を見ざる前に食事を摂り、痛切なる叱責を蒙（こうむ）りしは最大の失態なりき。・・・

8月30日

漸（ようや）く疲れ出し為（ため）か己が動作・行動無気力・機械的となりたるを見る。肉体的にと云はんよりは頭脳の働きの著しくその機能を失へるを覚ゆ。かゝる場合の打開策には魂に活を入れる事と休養をとる事とが考えらるゝ也。軍人としては専ら前者に依るべきなると知りつゝも自ら後者を求む。愚鈍の情、弱者なる哉。

9月1日

本日付を以て陸軍軍曹の階級に進めらる。軍曹に価する精神要素を有せざれば全く面目なし。2年3年粒々辛苦して与へられる軍曹と入営数ヶ月殆ど云ふべき苦しみもなくして進められし軍曹間に途程（けいてい？；近道のことか）あらば、陛下より定められたる軍曹てふ階級を冒瀆するものなり。・・・下略

9月2日

このまゝに卒業せんは、悲しかり。青々に享（う）けし 血はいづくにか 今にして われ悟らずんば 大君の 蠱毒（とどく；物事をそこない害すること）たるかは 草木にも劣る わがこころ 清く洗ひて まごころの あかきこころは ひたましゆかむ（ひたすらに増す）

9月3日

磯見習士官の話の中に、幹部の責任は兵をして死地に投ぜしむるにあり、この点軍曹も見習士官も少尉も大佐も大將も同一にして、その間責任の大小を云ふべからずとあり、吾未だ十分に其の意を得ざるも軍曹たるの責任の重大なるを強調されしならん。階級の進むに従ひ責任の倍增するを思ひ益々勉励すべきを念（おも）ふ。

9月6日

弥弥（いよいよ）射撃準備に入る。未明より作業開始。吾等の基礎作業如何の及ぼす処を思へば豈（あに）細密ならざるべけんや。今日の作業中射撃準備に就て会得せる処蓋（けだ）し大なり。特に照準具の修正量を測定する方法を体得せるはその最たるもの也。一つ一つの知識が悉く射撃の一点に於て生き行くは嬉しき限り也。射撃に関する一事一事を細心の注意を以て把握了得（りょうとく；理解し納得する）すべし。

9月8日

大詔奉載日、校長閣下の兵器検査を受く。最も遺憾に堪へざりしは従前発見し得ざりし缺陷を新たに指摘せられし事也。そは角度板遊標発条の欠失是也。これは区隊長殿の一応諒解せられてありし事項以外なれば臨場の隊長・区隊長の顔を丸つぶれにする。責任者として汗顔（かんばん；失敗で顔面に汗がでるほど恥ずかしい）の至り也。・・・下略

9月11日

9日に陣地侵入陣地占領射撃準備完了。10・11日放列観測射撃実施。待望の射撃実施は無上の歓喜なり。河村台への陣地侵入の苦しさは富士登山以上なりしが第三陣地に比し一時間の差を以て早く占領、余力を以て第一陣地援助を実施、甚だ愉快なりき。射撃第一日最後の中隊長として㊦二門による破壊射撃、命中弾もでて諸元の正確なりしを喜ぶ。自信を得たり。・・・後略

9月12日

不寝番不履行問題よりして吾等の生活全般に関し、候補生たる自覚・任務達成の熱意に於て一切を根本的に猛省するを要求されたり。隊長は身を以て二回分の不寝番につき以て我等を戒められたり。・・・偶々（たまたま）寢室勤務の任に就く、絶好の機会也。・・・此際真に内務を確立し、あるべき一区隊を作るべく、断乎任務の完成に努力せん。・・・下略

9月15日

我等の座禅に対する態度は隊長の御叱りの通り精神の充実せざる日少なからざりき。座禅のみならず点呼に対する態度も甚だ悪（あ）し。週番諸官の御注意を嫌ひその態度を露骨に表明したり、その前後に鼻歌の聞ゆる事すらあり、況や座禅に於ておや。確に我はこの環境に押されあり。我は座禅に対する従来の態度を超克（ちょうこく；のりこえる）し、実の境地より虚の境地へ、誠の境地・絶対・無・神に通ぜん事を期す。座禅も要は内務確立の為なれば寢室勤務者たる吾自ら実践し、要求すべきを要求しその実行を確認せざれば止まず。

9月17日

手塚大尉陸軍士官学校へ転任さる。最後の訓示を受く。真に我等の事を思ひ下さるゝ若（ごと）き熱情、特に臣道に徹底せよとの絶叫し来られし「誠」に深く感動せり。・・・下略

9月19日

18日より第二回放列観測射撃なり。18日は監的（当たり外れの報告者）19日は砲手勤務、共に雨霧に見舞はれ、目標も射弾も見えず。天候の障害を克服する着眼を養はざるべからず。下略

9月21日

雨天順延の放列観測射撃で、一番砲手・分隊長・砲車小隊長となる。これにて砲車小隊長の任務の大要を了得し得たり。又PQSを確実に求めてやれば射弾は法則通りに導かれ、命中を得る事困難ならざるを知り喜ばしき限り也。下略

9月25日

本日を以て野砲に依る射撃演習を終了。統監殿の懇切極まる御指導に依り多大の成果を収めたり。今可成(かな)りの量に及ぶ記録を整理しつゝ、愚鈍なる我等をして兎も角も各種射撃に關し一応の自信を得せしむる如く、叱咤激励下されしをしみじみ有り難く思へり。此の尊き体験を基礎となし典範(てんぱん)を味読(みどく)せんと期す。唯残念に堪へざるは、方向法及び方向交会法併用の方向法並に信管の諸事項を習得する機会に恵まれざりし事也。・・・下略

9月28日

ヨタ点呼に対する態度に於て週番諸官の注意を冷笑し或は之(これ)を茶化(ちゃか)して恥ずる処なき者少なからず。一部に於ては痛切なる叱責も用をなさざるが如し。良心の麻痺至れる哉。今の儘(まま)にして過ぎんが軍紀弛緩して拾収すべからざるに至らん。日本の重砲の為に之を憂ふ。

9月30日

教育總監部の兵器検査あり。以前と稍々(やや)要領を異にし専ら兵器の機能如何を看察せられたる也。・・・我(我)に於ては砲身の腐蝕並に觀準儀鏡内の紋点水泡を指摘せられたるも此等は吾人の怠慢に原因するものに非ざれば、漸(ようや)くにして少しく期待に副(そ)ふを得たり。・・・下略

10月2日

1日より終末私見実施さる。1日は作戦要務令・砲兵操典、2日は射撃教範・軍隊内務書及陸軍礼式令なり。前回に比し成績劣悪、結局不勉強なりし故也。・・・下略

10月5日

3日より第二期射撃演習也。3日正午状況入り。㊦の一夜展開。4日午前射撃24時行動開始、㊦の放列布置、5日午前射撃午後㊦㊦(三式砲戦車)撤収。3日は力作(九五式野戦力作車)班長として活躍。4日は第二回目の分隊長として、5日は八九一五加中隊の団列長として行動す。最後に砲手となり失敗大叱責を受く。

10月8日

6日火砲及火砲材料運行準備梱包。7日御殿場駅迄運行、8日搭載帰校。駒門を去ること感無量。初雪を蒙(こうむ)れる霊峰・親しみ深き函嶺(かんれい)おたふく松を仰ぎつゝ、駒門生活を懐(なつか)しむ。何と豊富なる生活なりしか。その内容多く苦しみもそれに伴ひ、常に追ひ込まれつゝも、何と力一杯頑張り来りしことぞ。・・・下略

10月10日

9日3時起床5時より卸下(しゃが; 装備品を車両から下ろす)、火砲其他を小原台に運ぶ。駒門転営時に比し速度の非常に増加せるを喜ぶ。10日は巨大な㊦起重機を小原台に運び且夫々(それぞれ)火砲の手入れ・員数点検。㊦起重機(十噸起重機か?)には圧倒されたり。・・・下略

10月11日

午前火砲の精密手入、午後内務にて夏物衣服洗濯、返納準備也。今の状況は決して気分弛緩し非ず。寧(むし)ろ卒業を目前にして一般に心が浮き、候補生生活の最後の締めくくりに力が入らぬ状況なり。卒業迫れるが故にこそ己の重責を思ひ、内的徳性を長養し、最後の仕上げに最大能力を発揮すべし。・・・下略

10月13日

昨夕より見習週番士官の勤務に服す。此の勤務に就き眼界(がんかい; 視野)一段と開けたり。今迄己



が区隊のみに限られ居りし眼界が更に下の兵舎全体に拡大されたり。人は一段高く登ればそれだけ展望の開けるもの也。・・・下略

10月16日

靖国神社臨時大祭、10時15分天皇陛下には新祭神に親しく御会釋（えしゃく）賜りたり。全国民此の時を期して遥拝。吾等も校庭に於て敬礼せり。凡そ陛下の御親拝たる非常の事にして我等国民の感激無上也。陛下と靖国の神々と一億国民との間には熱き魂の交感が出来、靖国の神々の魂を享（う）けて一億君国護持に殉ぜんとする精神新しく全国民に燃え上れり。・・・下略

10月17日

休務外出日、点呼までに帰校せず、而（しか）も飲酒して平然たる者あり、大いに叱咤す。諸規定に違反する者には断乎たる態度に出ずべし。

10月18日

外出し靖国神社に参拝す。

事しあらば わが大君の 大御為（おほみため） われもかくこそ 散るばかりけれ  
先輩杉井中尉殿を訪ね、原隊復帰に当りての注意事項を承（うけたまわ）る。

10月20日

①の撤収二区隊の援助を得て終了。備砲4日に対し撤収2日なりき。斯くの如き順調にして速やかなる備砲撤収は未曾有なりと区隊長殿喜ばる。而も作業終り帰校せんとせし時、区隊長殿より御自用の手套（しゅとう；手袋）を頂戴せり。名誉の至り。植村大尉の名に恥ぢざるの働きを此の手套にてなさんことを期す。

10月22日

大井少佐殿の砲兵計算尺に就ての講義。夜は謝恩会・懇親会。隊長殿・区隊長殿の前に坐し、大いに談じ大いに食したり、余興亦奇にして盛なり。愉快を極めたり。

10月23日

外出、山崎母子面会に来る。父からの軍刀届く。卒業帰隊準備に没頭。

10月24日

隊長殿の訓示あり、親切懇切にして勇気づけられしこと大なり。又隊長殿より原隊部隊長殿以下幹部に対する書状を託さる。名誉なり。而してその書状たる我等の身の上を思ひての事也。有難し、期待に背くべからず。

10月26日

卒業式、陸軍曹長の階級に進められ、見習士官を命ぜらる。

10月28日

夜、原隊に帰着。

了 2023.03.06 旧略字（文字表にない字）は改める。訓読み、註を付す 啓之

軍隊時代メモノート

昭 17・1・10	<p>西部第 74 部隊（下関重砲隊）に現役兵として入隊 所属 第 2 中隊井上班 陸軍 2 等兵 上官官職名 陸軍大将東条英機 参謀総長 陸軍大将杉山元 教育總監 陸軍大将山田 乙三 砲兵監 中将平田健吉 西部軍司令官 陸軍中将藤江惠輔 西部第 74 部隊長 陸軍大佐大木重実 大隊長 陸軍少佐古川次郎 中隊長 陸軍 少尉静原卓保 中隊付 陸軍少尉石井喜曾八 班長 陸軍軍曹井上七五郎 班付 陸軍伍長千代島忠及古賀衛 聯隊副官 那須末吉（中）</p> <p>身体検査・班長学課 班長より学科 日課時限・入浴・営内靴の使用法・食事・点呼・週番勤務・當番勤務 就床・呼集・兵日誌</p>
昭 17・1・12	<p>班長より学科 敬礼・室内設置物・火の取扱・洗濯・靴の手入・火災予防・火災呼集 使役・器物使用後の処置・負傷の処置・食事と衛生・室内の清潔・被服 郵便物の扱・面会</p>
昭 17・1・13	<p>入隊式訓示 聯隊長より 5ヶ条 大隊長より 4ヶ条 中隊長より 5ヶ条</p>
昭 17・1・14	<p>班長より学科 酒保・貴重品取扱・読書・演習・支給軍装品取扱・診断と個人衛生・被服 修理・検査・紛失時の処置・火災呼集・中隊勤務・掃除と清潔検査</p> <p>古沢准尉より学科 軍隊内務に就て</p>
昭 17・1・15	<p>白井准尉より学科 軍隊内務綱領 3 要点に就て・軍紀総則の若干に就て</p>
昭 17・1・16	<p>渋谷曹長学課 瓦斯に就て・91 式防毒面取扱に就て・不寝番服務要領・銃及銃剣</p>
昭 17・1・17	<p>渋谷曹長学課 被服の名称取扱手入法（午前） 朝中隊長精神訓話 初年兵強弱に大別・兵器検査と兵器二冠する諸注意（午後）</p>
昭 17・1・18	<p>中隊長精神訓話（午前） 勅諭忠節の項・戦陣訓・作戰要務令 便りありとりに来たれとどら声にわがどなられて心ときめく 此の便り初の便りぞ待ちてありき。誰にかあらん、父にてありき 爪先の冷たきまゝにゐねかねつ眼は閉ぢておもひつゝあり 此の身一つ御楯となすに何あらん訓諭（はなし）聞きつゝ涙しありき うち固めうち鍛へ行かめとことはの国のしづめと我はなるべし</p>
昭 17・1・19	<p>班長学課 陸軍刑法に就て 休日のある方に就て 45 式 24 糎榴弾砲に就て</p>
昭 17・1・21	<p>古沢准尉学科 火災予防に就て 午後体力検査 夜学習</p>
昭 17・1・22	<p>古沢准尉 於大畑練兵場 火砲架設機取扱指導</p>
昭 17・1・23	<p>全上 全上 24 糎榴弾砲操作実地指導 及中隊長訓示（幹候生志望者へ）</p>
昭 17・1・26	<p>橋本軍曹指導 砲床組立て 以後月末まで火砲操作訓練 下痢～28 日</p>
昭 17・1・31	<p>学課（隊長） 団結に就て</p>
昭 17・2・5	<p>渋谷曹長学課 警戒に就て</p>
昭 17・2・7	<p>班長学科 陸軍刑法・懲罰令に就て</p>
昭 17・2・11	<p>学課 陸軍礼式令綱領に就て</p>
昭 17・2・13	<p>古沢准尉学課 防諜・軍機保護法・要塞地帯法</p>

昭 17・2・14	学課（隊長） 武勇に就て
昭 17・2・16	朝非常呼集 赤間神宮参拝 昨夜のシンガポール城下の盟記念
昭 17・2・20	猛吹雪 砲床濠作業・銃教練
昭 17・2・22	父面会に来る
昭 17・2・23	午前午後 砲床材料組立 夜幹候受験準備
昭 17・2・24	兵器の名称・取扱・保存法・手入法の学科（班長）
昭 17・2・25	行軍 安岡・明根方面へ
昭 17・2・27	中隊内幹候試験 無し
昭 17・2・28	大隊長精神訓話 大東亜戦争の目的・聯隊標語 終了後大隊長の随時検閲 夜襟布を換へずして始めて古兵に殴らる
昭 17・3・1	午前中使役 午後班長引率シンガポール陥落ニュース見物、試験成績悪く班長に叱らる
昭 17・3・2	雨中一日中底飯組立、古沢准尉幹候志願者に特別学課教授
昭 17・3・3	実弾射撃及幹候試験準備
昭 17・3・4	～5日 被服検査準備・試験準備のための自習・毎夜古兵又は班長に殴らる
昭 17・3・5	幹候の中隊内申 上田・大森・河村の順なるを知る、奮励し中隊の期待に背かざるべし
昭 17・3・6	聯隊幹候試験 応募中隊より 28 名、問題平易なりしも若干失敗、但し自信あり
昭 17・3・7	使役多し、中隊長精神訓話（精兵・戦陣訓に就て）被服検査あり、夜中隊長より幹候口頭試験に就て注意を受く
昭 17・3・8	大詔奉載日、早朝亀山宮・赤間宮参拝、午前大詔奉読式、午後始めての単独外出許可 山中の叔父面会に来る
昭 17・3・9	久振りの練兵、体力の弱さと運動神経の鈍さを感じ、夜不寝番勤務の挨拶なしと殴らる
昭 17・3・10	陸軍記念日、宮城奉拝式・隊長訓話（陸軍記念日制定の由来に就て）上野古兵飲酒抜剣 して暴れ城古兵に殴らる
昭 17・3・11	幹候受験最後の口述試験 最初に当る 誠意を尽したれば悔なし
昭 17・3・12	午前火砲分解 正午非常呼集を以て第二次戦捷祝賀式 午後火砲組立準備
昭 17・3・13	午前火砲組立学科 午後身体検査合格 引続き底板組立作業（雨中）
昭 17・3・14	隊長精神訓話（礼儀及戦陣訓）
昭 17・3・15	山崎美智及父への便に盛込むべき事項整理、衛生訓話・焼夷弾及其の消火法教育
昭 17・3・17	山崎母子に便す。その要旨 古沢准尉学科（射撃教範・24 榴射撃用意及組立法）
昭 17・3・18	午前銃教練 午後 4 脚 10 噸起重機組立
昭 17・3・20	午前 部隊内務検査
昭 17・3・21	午前 軍装検査 午後 学課「服制に就て」
昭 17・3・22	午前 随時検閲予行演習 父と弟 2 人面会に来る
昭 17・3・23	午前 使役 午後 軍歌演習
昭 17・3・24	午前 使役 午後 焼夷弾消火演習
昭 17・3・25	午前 軍司令官随時検閲 午後 防毒面の取扱 保存手入法学科
昭 17・3・26	午後 火砲分解力作班作業 幹候試験聯隊で一番なりし由噂、実質もさるべく覚悟す
昭 17・3・27	午前 車輛編成 午後 代休外出

昭 17・3・28	牽引車進入路開拓・砲床濠堀開 午前中は班長代理として二班指揮
昭 17・3・29	猛雨で準備作業中止 山崎母子来り外出
昭 17・3・30	條ヶ濱で泥土中火砲組立 精魂を尽す
昭 17・3・31	前日の作業継続 中隊出身の見習士官 5 氏帰隊（内大深氏は仙崎出身）
昭 17・4・1	実弾射撃及火砲撤収作業 最初の射撃痛快
昭 17・4・2	火砲撤収作業及諸材料手入 3・4 日 朝砲腔磨き 午後 祭日及休日
昭 17・4・5	砲腔掃除
昭 17・4・6	火砲車輛編成並底板掃除 使役 車輛解脱 諸見習士官と話す
昭 17・4・7	24 榴組立力作班 分隊教練 13 番砲手
昭 17・4・8	大詔奉載式 徒歩教練・焼夷弾照明弾実験・銃剣術・分隊教練 13 番手
昭 17・4・9	分隊教練 14 番手・火砲分解力作班・火砲組立・合同葬
昭 17・4・10	植杭水準
昭 17・4・11	学課試験及学課・起重機組立分解一組二番 延燈勉強せよの佐藤見習士官の注意あり
昭 17・4・13	幹候合格 隊長・班長の厚思を思ふ 徒歩教練・寸度実測・火砲組立力作班
昭 17・4・14	幹候合格申告（隊長・部隊長） 午後分隊教練 部隊長より初志貫徹の訓あり
昭 17・4・15	銃教練 午後より幹候合同教育開始 学科試験・分隊教練・砲床材料組立
昭 17・4・16	自習・口頭試問・筆記試験（礼式令及砲兵操典）
昭 17・4・17	手旗通信・手旗 火砲見学（金毘羅・珠数山）
昭 17・4・18	精神訓話（戦陣訓）・射撃教範（久保少尉） 始めて米機来襲（東京・名古屋・神戸）
昭 17・4・19	平泉先生より便あり
昭 17・4・20	～25 日 教官不在に付、連続自習
昭 17・4・26	甲種幹部候補生を命ぜられ上等兵に進級
昭 17・4・28	全上を中隊幹部・部隊長に申告
昭 17・4・29	練兵場で初めての観兵式出場
昭 17・4・30	早朝砲床濠堀開の大作業流汗甚し、靖国神社臨時大祭に付、午後外出
昭 17・5・1	～3 日 初年兵検閲 幹候生自習
昭 17・5・5	体操・丸尾台砲台見学・検閲補助
昭 17・5・6	分隊教練 高射砲隊へ転属の戦友を送る
昭 17・5・10	昭和 17 年度第一次採用甲種幹部候補生集合教育のため陸軍重砲兵学校に分遣を命ぜらる 学校では第 1 区隊 14 番 ～6 月 12 日間の修養録紛失に付手紙類の外資料なし
昭 17・6・13	本日より 4 日間取締候補生を命ぜらる。以下 10 月 28 日まで、軍隊時代の一駒の通り
昭 17・10・28	夜原隊に復帰
昭 17・11・16	居室を中隊より旧中村隊に移さる。我等の身分将校勤務たる事明確化 序列 上田・杉村・熊谷・高山・高橋・大野・山田の順。 中隊では村上・藤野・沖・大森・梶岡の順なり
昭 17・11・18	見習週番士官の勤務に服す
昭 17・11・21	下関高女を借り運動会 進行係を果たす

昭 17・11・25	兵器検査也、兵器係将校として責任大なるを覚ゆ
昭 17・11・27	昭和 18 年度第一期本業教育計画表作成
昭 17・12・1	中野中隊と二中隊の気風改善に就て討議決定（方針）
昭 18・4・5	高射砲教育受講のため西部 8062 部隊（小倉）に分遣さる
昭 18・4・15	柳井八重子、女の道に就て問ひ来る、それに就て覚書をまとめる
昭 18・4・24	橘曙覧歌抄を読み、特に考へさゝれるものを抄出
昭 18・4・26	神観をまとめ修養の資とす
昭 18・4・29	天長節遥拝式後原隊訪問、同行せし本庄見習士官の一人物たるを発見
昭 18・5・3	防長教育会に来月分を併せて 10 円送金す
昭 18・5・4	教官の熱意なきに憤る、我等の言行を以て反省を促さんと決意す。
昭 18・5・6	柳井女の便をみて 道を念ふ心切なるな（汝）れなれば共にし行かば嬉しからまし あらはにはまだ云ひ得ざる言の葉のかなしくつよく心うつかな
昭 18・5・10	父よりの便、6 日の春祭にて落馬前歯 3 本折り顔面打撲症の由、 何故ぞ、まさか神罰には非ずや
昭 18・5・11	旅団長聯隊長を迎へて高射砲修正射実施
昭 18・5・13	警戒警報発令、砲側の戦闘準備を見る
昭 18・5・17	夜間照・空・砲共同演習あり、砲車小隊長をやる
昭 18・5・20	聯隊長来陣訓示あり
昭 18・5・23	総合防衛演習開始、小隊長の職務を執る
昭 18・5・28	旅団司令部にて中隊長式・小隊長集合教育開始、参加す
昭 18・5・29	彦島及火ノ山にて射撃予習 柳井女より便あり 妻に適せしと判断す
昭 18・5・30	～6 月 9 日、10 日間射撃演習実施
昭 18・6・12	父の上田家に関する考へ方を推測まとめる
昭 18・6・13	父・八重女・武男門司に面会に來り話す
昭 18・6・15	父より八重女との話打切る由云ひ来る、俄然疑惑生ず
昭 18・6・20	外出許可ありたれば八重女の所に行き真実を確かめる
昭 18・6・21	操典・教範につき学科試験実施さる
昭 18・6・28	猛訓練続き、査閲近し
昭 18・6・30	査閲恙なし、いゝ可減の講評たり
昭 18・7・2	小月飛行場見学 松本隊長の人格下士官兵より批判されあり、他山の石
昭 18・7・3	午後外出八重女と会ふ、考ふべきこと多し
昭 18・7・5	午後原隊復帰、中隊長外に申告。原隊程よき処なきを痛感
昭 18・7・6	朝部隊長に申告 當番兵として村上二等兵配分さる 勝れた人物也
昭 18・7・7	支那事変勃発 7 周年記念日、終日将校教育受講
昭 18・7・8	初めて通信の教官となり訓練開始
昭 18・7・9	午後より中隊教練 始め段列長 徹夜作業 払暁射撃では砲車小隊長
昭 18・7・10	午前火砲撤収 帰營直後火災呼集 午後就寝休務

昭 18・7・12	当分午前通信教育、午後及夜 中隊教練でしばしば指揮小隊長
昭 18・7・18	朝八重を下関駅に迎へ、安岡・綾羅木方面を歩く
昭 18・7・20	検閲、通信補助官を務む、～21 日に及ぶ
昭 18・7・21	22 聯隊での教育成果、余西部軍で一番なりし由
昭 18・7・24	第一種巡察勤務に就く、一週間継続
昭 18・7・27	ムッソリーニ桂冠 国王中心主義勃興か 政策転換は確か也
昭 18・7・30	綾羅木海岸にて遊泳演習 ～一週間
昭 18・7・31	前重小尉・北村見習士官教官として中隊付となる、余中隊副官を意識
昭 18・8・1	朝隊長室に移る
昭 18・8・2	夜北村見習士官を通信の兵に引き会わす。3 週間の縁、兵との別れ寂し
昭 18・8・4	隊長と兵日誌点検 軍紀振興策開始
昭 18・8・5	各特業教育巡視に隊長を案内 午後余指揮にて一泊遊泳演習
昭 18・8・7	午前大掃除 午後内務検査一週番士官として進行を主宰
昭 18・8・9	防空訓練、朝通信兵 5 名熊本に送る 余に対する惜別の情に感動す
昭 18・8・14	週番申送り、週番中の活躍効果出始め嬉し
昭 18・8・18	隊長の時計紛失事件で悩む
昭 18・8・19	幹候志願者教育次第に成果あり
昭 18・8・22	休日に付古市行 八重授業中なり昼休時間下宿で会う
昭 18・8・24	予科陸士生徒となり居る弟興来營話す。頼もしく成長しあるを喜ぶ
昭 18・8・25	検閲と防空設備の完成 防空諸計画は上田作成
昭 18・8・27	初年兵検閲 精神教育の不足目立つ 71 閣下の防空施設巡視
昭 18・8・28	日本正史の編纂に勅許ありたる由、特記に備す
昭 18・8・30	6 月入隊の補充兵満期除隊、当中隊よりの船舶司令部への転属者出発
昭 18・9・1	内務班再編実施 下士官候補者教官を命ぜられる。警戒警報発令
昭 18・9・3	下士官候補者教育計画作成 4 日副官に見てもらひ訂正、教育主任に提出
昭 18・9・6	下痢激し、天罰也。将校自動車教育欠席
昭 18・9・8	午前自動車教育 午後焼夷弾実験
昭 18・9・9	下士官候補者教育本格的に開始 果たして伊降伏
昭 18・9・11	江口中佐来隊 余恩義を受けし者に周旋して送別会を開催、喜ばる
昭 18・9・13	朝刊にて藤田閣下の御逝去を知る 大恩人の一人也
昭 18・9・17	体調悪し、身体のどこかに故障あるべし
昭 18・9・18	志那事変十周年記念日 全員駈歩にて忠霊塔参拝
昭 18・9・19	八重来関 寺内で話し映画をみて夕方駅に送る
昭 18・9・22	教官としての余と下士候出身中隊長との関係に苦しむ
昭 18・9・24	八重の処へ行く 父への伝達委嘱 帰營後週番士官勤務に就く
昭 18・9・26	候補者の個人指導開始
昭 18・9・28	深夜 2 時火災呼集 軍司令官来營 猛雨中の大活動
昭 18・9・30	昨夜防衛演習 余以外に中隊の配備を指示し得る者なきを実証す

昭 18・10・4	教官としての教育と力作起重機・射撃予習と交錯 専門店で軍装注文
昭 18・10・6	下士候教育で最も充実せる教育実施出来たり
昭 18・10・8	下士候教育完了
昭 18・10・9	週番士官を交代してもらって古市行、八重深川に行きあり歩いて帰郷、八重従前より父の部屋にねつゝある由、貞節を疑ふ、10日帰営
昭 18・10・11	日出生台での幹部集合教育に於ける任務決定、内尾隊の中隊付にして通信係也。出発準備一日で完了
昭 18・10・15	21時37分下関発 5時北田市着 積荷卸下、自動車にて運ぶ
昭 18・10・16	部隊長と目標設置行、雨中夜になる。17日に完了
昭 18・10・19	第一回射撃開始 明日は射場掛長也
昭 18・10・23	西射場射場係長勤務 24日は東射場監的掛長也
昭 18・10・26	最後の射撃なり、射場係長勤務、命中時の壮観さと射撃精度の良さに驚く
昭 18・10・29	部隊射撃開始 西射場射場掛長・指揮小隊長・砲車小隊長を次々体験
昭 18・11・1	第一回目射撃実施 失敗して大なる教訓を得 2日は監的勤務
昭 18・11・3	展開演習の自動車掛将校、偽装運行・備砲作業朝の3時迄
昭 18・11・6	4日に比し射撃うまくゆく。重村大尉に下士候の成績表提出
昭 18・11・7	最後の本砲射撃、不発弾多し 午後明日の大隊実射の陣地進入 払暁の射撃未し野の果の 福万山に霧たちのぼる
昭 18・11・8	雨で大隊実射取り止め、撤収帰営準備～10日
昭 18・11・11	6時自動貨車にて日出生台出発 悪路運転を誤り車顛倒2名負傷
昭 18・11・12	別府に出て旅館に一泊 かれかやの白穂に続く夜の山路 四列縦隊行軍すすむ
昭 18・11・13	朝別府発の軍用車にて原隊に帰営 卸下最後まで見届け深夜となる
昭 18・11・15	非常呼集・火災呼集後外出
昭 18・11・16	観測教育実施 自営防空計画作成 ～20日一応完成
昭 18・11・19	下級者上級者を負傷させる事件起こる。下級者に謹慎を命ず
昭 18・11・22	中城湾要塞へ行く 北村見習士官の送別会 「天兵に敵なし」の書を贈る
昭 18・11・23	防空細部計画に苦心。前重少尉の好意で名池山福永家に下宿決定
昭 18・11・24	防衛訓練第一日、余の計画の妥当性明確化 次に防空任務表作成を
昭 18・11・25	兵の逃亡事件と手榴弾爆発事故相次ぐ 下士官候補者教育成果の内容及成績一覧表書式
昭 18・11・27	久しぶりの隊長精神訓話・・・相次ぐ事故に対応
昭 18・11・28	非常呼集、次で警戒警報発令 直ちに防空監視哨を求め関山登山
昭 18・11・29	昭和19年度自動車・健兵保育・上等兵候補者並上等兵特別教育の教育計画の作成を命ぜられる。4日正午まで
昭 18・12・1	初年兵所謂学兵入隊、14名、この初年兵指導を命ぜらる
昭 18・12・2	現役満期引続き臨時召集を命ぜられ陸軍少尉（予備役）に任ぜられる 夜下宿に荷物を運び正式に営外居住す

昭 18・12・4	午前中で教育計画作成完了 正午第一種巡察申告
昭 18・12・5	新任少尉部隊長殿に招待される
昭 18・12・6	幹部候補生隊付を命ぜられる
昭 19・1・10	入隊二周年記念日 自動車の教官として始めて現況把握
昭 19・1・11	平泉先生より御状頂く、感佩の至り也
昭 19・1・12	八重子との婚姻許可せらる。中隊経理検査
昭 19・1・15	本日より週番勤務
昭 19・1・17	中隊兵器検査、幹部候補生採用試験
昭 19・1・19	大本営より余の所在問ひ合せありたる由、転属の準備せよと副官より指示あり。平泉先生の御声ありしか
昭 19・1・26	兵器検査終了、牽引車始動せざりし外は概ね良好
昭 19・1・28	調整行軍にて小串の先湯王まで行く
昭 19・1・31	内務検査 健兵保育及自衛防空計画による新行動始まる
昭 19・2・4	12日結婚式を予定
昭 19・2・6	軍装検査 教育計画作成 教育実施一身に集中 他将校の役割や如何
昭 19・2・9	随時検閲昨日より、将校に対する筆記試験あり、12日挙式と決し休暇を頂く
昭 19・2・11	夜帰宅、12日結婚式、吉地先生夫妻媒酌 13日披露 15日帰着
昭 19・2・17	部隊長転属さる。我は学校分遣の由
昭 19・2・19	部隊長離任式・送別会
昭 19・2・21	新部隊長陸軍中佐堀等初登営・初訓示
昭 19・2・22	八重子来り 23日置手紙して帰る
昭 19・2・25	婚姻届提出 中隊長に申告
昭 19・2・26	乙種学生として重砲校分遣準備 八重子来る。28日10時に八重子を送る
昭 19・2・29	朝御殿場着 荷物未着 半田少尉殿より営外居住と聞き驚く
昭 19・3・1	重砲兵学校で乙種学生入学式——幹部候補生隊区隊長たり得る人材養成 下宿なし 半田少尉殿下宿に同居させて頂く
昭 19・3・2	射撃教範を出発点とし連日徹底した教育続く 内容は別ノートに詳記 殆ど連日宿題あり、時々校長閣下外（ほか）幹部同席
昭 19・3・12	上京、図書を購入し平泉先生訪問 お元気にて何より也
昭 19・3・19	夜下宿決定 来日移転約束
昭 19・3・24	駒門渡辺元治方に移転——高山中尉殿お世話也
昭 19・3・28	夜乙種学生懇親会
昭 19・4・2	現地教育開始 引続き実射訓練
昭 19・4・16	学校創立 55 周年記念日 式及宴会あり 沖・有田ら臼砲要員に入りし由
昭 19・4・20	実射、二発命中 松本大佐よりほめられたり 21日も実射拙き点あり
昭 19・4・23	最終実射 午前㊟はうまく行き午後の㊦は拙し
昭 19・4・24	要塞射撃勉強の為横須賀に移転
昭 19・4・26	三崎城ヶ島砲塔見学、夜岬陽館にて送別会



昭 19・4・28	朝荷物を駅に出す、12時半修業式、終了後帰途に就く、教育成果絶大
昭 19・4・29	24時帰宅 30日午後帰隊 下宿なく当分営内居住とす
昭 19・5・1	部隊長以下に申告 下士官候補者教官を命ぜられ、教育大綱起草
昭 19・5・6	招魂祭行事、教育計画完成
昭 19・5・7	やっと下宿発見、寝る場所だけで食事出来ず不便
昭 19・5・8	教育開始 並行して幹部教育
昭 19・5・10	古沢中尉副官へ 2中隊長中野中尉より弓削中尉へ、中隊長代理心得
昭 19・5・14	八重子来り 午後4時に帰る
昭 19・5・16	部隊創立記念日 式後競技会
昭 19・5・17	中野中尉の要望により幹部教育でア号教育担当実施
昭 19・5・19	午後高射砲隊の小隊長を命ぜらる。部隊防衛演習期間中也
昭 19・5・21	八重子来る ～23日帰る
昭 19・5・26	中隊諸事務を執る 夜中隊長・副官歓送迎会
昭 19・6・1	第二次補充兵入隊
昭 19・6・3	八重子来り4日朝帰る
昭 19・6・5	当分の間補充兵の世話続く
昭 19・6・10	夜八重子来る、11日夕帰す
昭 19・6・14	下士候教育に失望 画期的提案上申、近く㊦要員として出勤示唆さる
昭 19・6・16	空襲警報発令 米の超大型機来襲 辛じて4機撃墜又は撃破
昭 19・6・17	18日にかけて某空設備強化
昭 19・6・23	中隊教練実施 演習中隊長として全員を動員実施 貴重な体験也
昭 19・6・24	八重子来る。 ～26日早朝帰す
昭 19・6・27	下士候中より諜報機関要員5名を出すことゝなり人選
昭 19・6・30	演習中隊長となり一泊行軍を指揮 水源地→密村→松谷
昭 19・7・3	七一閣下来営、特観教育を始めることとなるも余の外担当者なし 夜八重子来り4日早朝帰す
昭 19・7・8	空襲警報 満月下我方一機犠牲となる。敵方の被害不明
昭 19・7・9	大詔奉載日 中隊長代理として大詔奉読並に訓話 夜八重子来る。10日午後帰す
昭 19・7・10	下士候教官を免ぜられ中隊教育に専念
昭 19・7・14	高射野砲研究の為中部71部隊に出張を命ぜらる
昭 19・7・15	検閲諸準備、検閲に関し意見開陳 八重子来り翌早朝帰る
昭 19・7・17	～18日検閲 サイパン全員玉砕
昭 19・7・21	小磯・米内に大命降下の趣、聯立に重大局相を見る
昭 19・7・22	八重子来る。23日午後帰す。 小磯内閣成立
昭 19・7・26	宿泊演習指揮 ～31日
昭 19・8・2	八重子来る。遂に退職の由
昭 19・8・5	満州並台湾要員召集、自隊将校9名加はる由
昭 19・8・6	舞鶴重砲に出張 23時20分出発、午後八重子来り夕切符なく帰り来る

昭19・8・7	西舞鶴到着 直ちに豚長に申告 親切さ身にしむ ~9日迄研究
昭19・8・10	途中帰宅、八重子も本日退任式を済した由 11日帰隊
昭19・8・12	週番勤務に就く ~19下番
昭19・8・19	八重子来る ~25日
昭19・8・20	夕刻堂々たる空襲 B24、B25 大編隊 撃墜は僅か4機
昭19・8・23	①要員たりしが何時の間にか変更されあり
昭19・8・26	①動員は宮崎県、千号作戦は志布志湾なる由、本土上陸門備也
昭19・8・31	下士候序列決定、兵精勤章附与者決定 A高射設備の腹案立つ、八重来~9月1日
昭19・9・2	見習士官に対する射撃教官を命ぜらる、どんどん進行させやり甲斐あり
昭19・9・9	警備巡察勤務に就く~15日下番 疲労の原因なり
昭19・9・15	八重子来る~18日まで 来火曜七一閣下巡視の際指揮小隊長を命ぜらる
昭19・9・19	午後中隊射撃訓練 指揮小隊長となる 指揮は可なり
昭19・9・21	東大國史研究室より新聞送り来る
昭19・9・22	午後射撃訓練、中隊長として久振りに放列指揮を執る 間違いあるも愉快
昭19・9・23	初年兵教育 砲台・壇ノ浦・乃木神社に引率歴史を話し自覚を促す
昭19・9・26	①二ヶ大隊編成 吾も是に参加することを決定し大いに張切る
昭19・10・7	これ迄営内に宿泊して庶務・教育に当り久振り下宿へ 八重子来りあり
昭19・10・8	八重子の母来る 映画を見せ二泊翌朝帰る 八重子は11日帰る
昭19・10・14	見習士官教育を部隊長に見て頂き批評を仰ぐ
昭19・10・16	中隊長に代り精神訓話 引続き内務指導
昭19・10・20	下関駅に海軍遺骨出迎へに部隊を代表して出る。八重子来る ~23日
昭19・10・21	午後教育室に呼ばれ宮崎出張に関する指示を受く 弥々上陸防衛也 第二中隊長として活動する事となりありし趣也
昭19・10・23	宮崎出張、部隊長以下4名にて出発
昭19・10・24	10時宮崎着、各方面と連絡、地形大観、師団参謀と内合せ
昭19・10・25	各地で陣地偵察。砲坐4ヶ所のみ決定
昭19・10・26	福田中尉殿と手分け協力、放列陣地位置を2ヶ中隊分求め得
昭19・10・27	師団長も来られた広原に△所を探す (△は△の代用)
昭19・10・28	部隊長と共に砲坐△共に陣地偵察成果を得、夜帰関の途に就く
昭19・10・29	ふらふらになり帰隊、部隊長と親しくなりし収穫あり
昭19・11・4	午後2735 部隊本部にて同部隊長より㊦の鉄筋コンクリート掩体に就き実験談を聞く
昭19・11・7	重枝少佐殿の指示より昨日徹夜にて㊦放列陣地の設備寸法経始作成、今日は福田中尉殿 と之を完成、部隊長殿も之を重視
昭19・11・9	洞窟内備砲教練の中隊長を命ぜらる。11日備砲方式の工夫完成
昭19・11・11	八重子来る~13日
昭19・11・13	佐世保重砲に出張——4号演習に関する調査の為なり
昭19・11・15	演習二日目閣下の原案による車輛の進入退出・待機位置の経始判明、作命其他重要書類 を託される

昭 19・11・16	部隊長殿に報告、宮崎への第2回目陣地偵察を命ぜられ部隊長以下8名出発。杉村も含まれる。
昭 19・11・17	住吉着、偵察 18日火砲位置進入路策定 19日細部調査夜行にて帰隊
昭 19・11・20	副官教育主任に報告直ちに細部編成要図作成 八重子来りあり～23日
昭 19・11・21	昨日の要図を訂正完成
昭 19・11・24	部隊長殿の招聘により宮崎に急行する、下宿を引上げ兵引率
昭 19・11・25	住吉着 新任務受領 26日より作業開始 第二砲車坑道縦断面完成
昭 19・11・27	縦断測量完成 夜部隊長に報告
昭 19・11・28	予備火砲陣地候補地測量、砲車位置決定・砲車間隔測定
昭 19・11・30	29日細部測量、30日所要の要図調製完了
昭 19・12・1	本体来陣、夜部隊長の指示を受く
昭 19・12・3	七一閣下の方式良きを知り、閣下の方式で再測量開始
昭 19・12・4	七一閣下来陣、福田隊に比べ一部の修正のみで良しと評価される
昭 19・12・5	作業の段取りなる 部隊長に報告
昭 19・12・6	築場教育のため志布志に出張
昭 19・12・7	七一指導部に陣地偵察要図一括提出、OKとなる。築城教育を受ける
昭 19・12・8	渡辺技手より築城工法講義 平野中佐より今回の築場の弱点指摘
昭 19・12・9	現地教育解散 23時帰陣
昭 19・12・10	宇佐八幡宮より来り修祓式、陣地細部測量、招魂祭で村長と会合
昭 19・12・11	歩兵大隊と連絡 村長と土地借上協定 部隊長へ連絡
昭 19・12・13	午前内務 内務検査実施 午後上土作業開始 地主と連絡開始
昭 19・12・14	射界の標示組と進路工事組とに二分して作業開始
昭 19・12・16	進路工事一応完成
昭 19・12・18	部隊長・鉄道監来陣視察
昭 19・12・20	経緯儀による精密測定開始 鉄道工手来属
昭 19・12・22	第一砲車の精密測量完成 竹製土運搬具作製
昭 19・12・23	架橋にて進路作業完成 坑道作業準備
昭 19・12・24	築城教育で宮崎本部行、22日提出の書類訂正
昭 19・12・25	加納鉄道官の教育あり、築城の制式決定 3月末完成の命を受く
昭 19・12・26	「トロ・レール」運搬、起工式。部隊長・重砲少佐・村長の出席
昭 19・12・28	瀬戸口隊来援、第一砲車進入路工事、始めてマイトの使用
昭 19・12・30	三月末完成見込なしが判明
昭 19・12・31	原隊より久保曹長ら33名来援
昭 20・1・1	宮崎神宮参拝 遥拝式・訓示
昭 20・1・2	作業本格化 別に部隊長点検の坑道教育計画あり
昭 20・1・4	部隊長巡視、進捗予定表作成
昭 20・1・7	第一砲車切崩完了 軌条設置トロ使用開始
昭 20・1・10	石工配属7名

昭 20・1・12	二交代作業開始、夜間勤務者を以て偽装準備
昭 20・1・15	七一閣下巡視
昭 20・1・18	爆薬不足にて進度減少の為ダイナマイト受領、まつ隊 29 名来援
昭 20・1・19	電燈設備開始、20 日完了点検
昭 20・1・21	久留米師団長閣下巡視
昭 20・1・23	54 聯隊より強力部隊小原中尉以下 120 名来援
昭 20・1・29	小原隊△手を以て陣地精密測量を命ず 不備の為 2 月 4 日自ら再測量
昭 20・1・30	西部軍に報告すべき陣地の断面・平面図作成
昭 20・1・31	作業進度整理、露天陣地偵察
昭 20・2・1	雨中作業開始
昭 20・2・4	協力部隊師岡隊と交代、部隊長来陣諸注意あり、石工解囑決定
昭 20・2・6	祖母悪き由八重子連絡し来る
昭 20・2・8	閣下巡視の為夜勤に昼勤を命ず
昭 20・2・10	閣下巡視諸注意あり、15 聯隊要員として佐重編入を命ぜられ 11 日出発
昭 20・2・12	帰閩、更に帰省祖母を見舞う
昭 20・2・13	部隊長の命課変更申請に依り、宮崎帰任を命ぜらる（転属取止め）
昭 20・2・15	夜宮崎帰陣、中隊幹部帰陣を喜び呉れる
昭 20・2・17	各高地偵察、補助△所決定
昭 20・2・19	第一砲車木材運搬路完成、不在中の第二砲車作業の修正に苦勞
昭 20・2・20	坑道作業への準備完了、教育の為夜行にて下関出張
昭 20・2・21	下関着、部隊長へ申告 祖母死亡の電報受領
昭 20・2・22	築城教育 ～24 日、24 夜祖母死亡日付き休暇帰省
昭 20・2・26	下関出発、27 日住吉着、瀬戸口中尉の指揮下に入る 同中尉に申送り
昭 20・3・2	坑道作業開始
昭 20・3・3	乗馬して瀬戸口中尉を△所・補助△所に案内
昭 20・3・4	△所の土地使用に関し歩兵大隊長と直接交渉
昭 20・3・7	民家宿営を決定、夜幹部会 8 日移転
昭 20・3・12	午後病気の為就床 軍医来る 13 日離床
昭 20・3・13	初年兵を陣地に案内説明、部隊長来陣 編成 宿舎変更
昭 20・3・15	後半夜勤、見士の指揮悪く修正ばかり也、瀬戸口中尉の指揮益々悪化
昭 20・3・18	大空襲を受く波状猛攻にて被害大、19 日午後も然り、右眼下怪我す
昭 20・3・22	精密測量の結果幾多の修正点確認
昭 20・3・23	重砲校分遣の為 22 名原隊復帰、為に作業部署再編成
昭 20・3・26	瀬戸口中尉休暇の為全隊指揮 ～4 月 6 日
昭 20・3・28	頂設完成 △も空襲で被害を受く
昭 20・4・2	第一砲車本坑道貫通 開通祝賀式を行う
昭 20・4・7	夕 全将校 見士集合 今後の作業に就て区処
昭 20・4・8	志布志に見学出張 10 日帰着 部隊長に復命

昭 20・4・13	帰省の途に就き夕帰着、16 日出発原隊に一泊 17 日帰陣
昭 20・4・18	支保作業指導開始
昭 20・4・19	作業部署変更並宿舍変更
昭 20・4・21	未曾有の空襲、隊に被害なし、26 回目の誕生日也
昭 20・4・24	128 部隊長閣下初巡視——方針変更 全部露天砲坐となる事となる 無念
昭 20・4・25	部隊長来陣、露天砲坐陣地偵察、ほぼ位置決定
昭 20・4・26	朝より空襲危険を感じず、29 日迄連続なり
昭 20・4・30	露天陣地測量、空襲にて一時作業中止、空襲 4 日まで続く
昭 20・5・5	3 日の部隊長との相談の結果、露天砲坐の細部位置決定
昭 20・5・6	幹候・下士候志願者教育開始、露天砲坐作業開始
昭 20・5・10	空襲なるも作業順調、空襲は 14 日迄連続
昭 20・5・16	部隊長来陣、待避壕増築を命ぜらる
昭 20・5・20	作業終了
昭 20・5・21	兵の娯楽会、第二坑道裏本坑道にて、慰問の娯楽会あるに対応
昭 20・5・23	雨で崩壊した陣地復旧作業
昭 20・5・27	128 部隊長・第一砲兵隊長来陣
昭 20・5・30	住吉神社に行軍参拝
昭 20・6・3	非常呼集にて宮崎神宮参拝
昭 20・6・8	6 日より帰営準備、挨拶廻り、6 時出発夕原隊着
昭 20・6・10	中野長太郎氏方に下宿決定 12 日移転
昭 20・6・13	幹候試験委員を命ぜらる 18・19 日実施
昭 20・6・15	八重子来る ～17 日
昭 20・6・17	部隊長より将校教育として築城教育を命ぜらる。この頃より連日空襲
昭 20・6・29	教官は 28 日より実施、7 月 18 日も、19 日・20 日も
昭 20・6・30	八重子来る ～7 月 4 日迄
昭 20・7・1	空襲下関市大部分焼失
昭 20・7・4	自衛防空体制の基本決定
昭 20・7・11	八重子来る ～13 日帰る
昭 20・7・25	八重子来る ～29 日帰る
昭 20・8・1	機雷、営庭其他地上に落下
昭 20・8・2	空襲なく正常な訓練開始 当分続く
昭 20・8・8	大詔奉載式、訓示意を尽す。 久振りの大空襲
昭 20・8・9	米新爆弾威力絶大なる由、又ソ聯不法にも参戦
昭 20・8・10	ソ連参戦に関連私等の覚悟を訓示、新防空壕構築開始 空襲相つぐ
昭 20・8・12	緊急編成動員発令さる
昭 20・8・15	終戦勅語あり、演習中にて直接聞かず、若し国体護持出来ざれば一死起上らん
昭 20・8・16	非常呼集、停戦協定前に敵上陸せば一戦すべく田部に移駐 (17 日)
昭 20・8・18	昨出発後八重子来る、一泊して帰る

昭 20・8・19	流言に迷ひ逃亡兵多し
昭 20・8・21	幹部以下に官給品支給 下士官は更に盗みをなす。世紀末なり
昭 20・8・22	敵上陸の流言に乗じ暴動略奪あらば軍で鎮圧することとする
昭 20・8・24	岡枝より原隊に帰る
昭 20・8・25	下士兵の荷物を検査余分を引上げ、八重子来り荷物一括持帰る
昭 20・8・27	兵器・諸業務整理・保清進む 不要兵員逐次徴集解除 残務整理
昭 20・9・10	8日付で陸軍中尉に任ぜらる、部隊の壁頭也 14、8月17日付第2中隊長代理（破格也）
昭 20・9・11	八重子荷物引取、12日も。
昭 20・9・15	復員式 16日八重子来関
昭 20・9・17	召集解除
昭 20・9・21	帰郷

了 2023.04.04 啓之